

村のすがた

この吾妻郡岩井村（現吾妻町岩井）絵図は、名主を務めていた伊能家に残されていたもので、貞享元年（1684）4月に作られました。大きさは縦73cm、横81cmです。

絵図は、上が南になっており、下に吾（我）妻川が描かれています。家や橋、また上田や下田、上畑などの耕地の等級も記されています。村内の道や橋も分かり江戸時代中頃の村の様子分かる絵図です。

岩井村は、沼田藩真田家の領地でしたが、天和元年（1681）の真田家改易後は幕府領になりました。元禄10年（1697）に旗本保科家の領地となり、明治に至っています。村高は貞享3年（1686）に737石1斗7升9合、耕地は91町9反4畝15歩でした。うち、田は30.3%で残りが畑でしたが、岩井村は吾妻郡内では比較的水田が多い村でした。人口は、天保7年（1836）戸数126で441人（男231人、女210人）で、寺が2つあり、僧侶が3人いました。

〔参考資料〕『群馬県史』通史編4 467～492頁
『群馬県史』通史編6 171～192頁

